

嬉泉の新聞

嬉泉の新聞／第19号／1991年（平成3年）6月発行（年3回発行）

発行所＝社会福祉法人嬉泉・東京都世田谷区船橋1-30-9(〒156)

T E L 03-3426-2323

発行人＝石井哲夫 編集人＝友田篤

心理臨床は、解決課題を 見つけることから

大野清志

私の仕事は大学の外来教育相談である。長い間にはたくさんの人達やそれらの人達が訴える問題にであって来た。障害をもつ人達とのつきあいもそんな過程である時期、それまでには全く経験のなかった新しい問題にぶつかる形で始まったことであった。障害児の問題に限らず、私は、相談の対象になる問題行動そのものに関する専門的な研究をやってきたわけでもない。むしろ、相談技法の適用や開発に力点がおかれていた。いろいろな人の悩みや問題に当面すると、そのメカニズムがどうであるかよりも、改善に向けて、まずどうしたらよいかが問われることから、これは当然の事と今でも考えている。従って、現在、研究の仲間にいれてもらってはいるものの、同じ仲間の人達のように長年にわたって、自閉症のこと、また発達障害児なるものの本体について、専門的な研究を積み重ねているわけではない。いわば、こうした問題に関して私は素人の域を出ないというわけである。それでも、適当な課題が見つかり、それを解決させる技法が見つければ何とか出来ると言うのがこの10数年間の実感である。

これまで、私は催眠面接やら動作法を中心として、訴えられる問題に応じて、それ以外の方法も適当に使ってきた。しかし、ある一つの方法を選んでも、その体系を理論通りに、面接の過程すべてにわたって使ってきたわけではない。本来、催眠面接は多面的な性質のもので、多くの場合、他のいくつかの技法を組み合わせ、Clientの状態に合わせて工夫をしながら進めるのが普通である。この場合の工夫は、今、彼にどんな課題を設定し、それをどのように解決させたら行動改善に良い結果が現れるかといった、課題を見つける工夫である。それは必ずしもClientの状態に関する理論的、構造的な理解から固定的に得られるものでもない。同じ問題でも課題の種類は違う場合もある。課題解決の援助の仕方が技法なのだから、いつも一つの技法で済ませることは出来ないはずである。それなのに、周りを見ると、特定の理論や技法に全てをかける人達がどうも多すぎない

かと感じることが多い。

催眠面接はいろいろな課題を扱えるので、これまでに結構重宝して使ってきたが、障害児に出会ったとき、さすがに催眠面接は殆ど適用しなかった。しかし、催眠状態での脳性まひ児の不自由の研究は、幸いにも動作訓練法を生み出してくれた。この子達の問題、『からだ』の不自由を改善するのには、動作課題の解決が必要だということが判ったわけである。それまで考えもしなかった新しい課題を手に入れることが出来たといえる。その後、この動作訓練を自閉症児や多動児にやってみたら、非常に効果的に、行動がよい方向に変わることを見つけた。これには別に、理論的な必然性があつたわけではなく、全くの思い付きが時にはこんな好運をつかむこともあるのだなど、今でも不思議に思っている。もっとも、脳性まひ児に動作訓練を行っているとき、『からだ』の動かし方が変わると行動も急速に変化することは既に見ていたことであった。きまった筋道だけを見るのではなく、また当面の目標だけにとらわれずに、ある課題解決によって、広く何が起きるかをよく見ておくものだと思つて痛感したもの、この発見があつたときの感想である。そして、動作訓練を手にしてから、今まで、一つの課題が解決する問題はそれほど多くない、相手によってやってもらう課題は、その時々と違つて考えていたものが、必ずしもそうでない特別な課題があることが判つたのも収穫であつた。判つたはよいのだが、Clientの変容過程を分析して、行動と『からだ』の關係に新しい視点を考えねばならないという、既に進行中ではあるが困難な宿題も抱えてしまった。こんな理屈を考えると、あまり頭の回転の速くない小生には、楽しいのか苦しいのか、それでもあれこれやっていると、こんな楽しい発見があるから臨床は止められないと言う経験も、しっかりさせて貰つた思いはある。

(大妻女子大学教授)

私たち（社会福祉法人嬉泉の事業所の幹部）が集まって出る話は、「この節、一般の企業は人手不足に悩んでいるというが、私たちのような社会福祉の仕事をしている者は、その上人材難に悩んでいる」である。この頃話題になる「強度行動障害」は、処遇困難な事柄であるから、当然その強度行動障害を多く示している自閉症児者に関わる施設職員としては高度の処遇能力を必要とされるわけである。又このような仕事をする職員たちは、どうしてもストレスが多くなりやすいので、職場の人間関係も、それに影響を受けやすくなって、どうも救いたい気持ちの歪みが助長されやすいのである。このような時に注意しなければならぬ人物は、一見正義面をして、いかにも親切めいた口調で無責任な言動を多くする者であろう。特に初めて社会福祉の現場に就職をしてから、孤独で不安定になっている新人職員達は、一たまりもなく、これにまぎこまれてしまうのである。社会福祉施設が閉鎖的になり易く、何か少しでも自由に、先駆的に仕事を進めようとするれば、経営的なやりくりをせざるを得ないし、それを批判的に見ようとす

れば、いくらでも出来るものなのである。

つまり批判の種は、いくらもころがっているのである。

狭い施設の中で、心身疲れ果てた若い職員が、そのストレスの解消に、前出の正義面に扇動されて理事長や施設長を攻撃しはじめるわけである。こういう時に一人でも、ものごとを現実的に見ることの出来る人物が傍らにいと、この「批判はするが、責任を果たさう」としない正義面」の居場所がなくなるのである。

施設経営の創造性（その十）

石井哲夫

施設職員は、難しい利用者の問題を上手に処遇するだけでなく、職員のストレスをお互いに解消しあう力も求められているわけである。しかもこのような職員集団を運営し、職場のモラル（志気）を向上させるようなリーダーシップを発揮する施設長などのリーダーや、施設の運営の縁の下力持ちとなつていゝ事務職員にも、多くの努力や能力を必要とされるわけである。

つまり、ここでは人数が必要と

いうばかりでなく、人材が必要なのである。

従って、社会福祉施設の運営管理は「高質な人材」の養成が必要なのである。一方では、社会福祉改革と言つて、社会福祉サービスの質的向上を求めながら、地域福祉の強化を叫んでいる我が国の社会福祉の動向を考えると、一日も早くこの「高質な人材」の養成を考えていかなければならないのである。

「高質な人材」の養成に関して考えてみると、

まず、人材は、広い裾野を持った社会福祉関係者から生まれるわけであるから、いわゆる国民の皆福祉教育を志向することが大切であり、中でも大切なことは、先導的な役割を持つ、社会福祉専門教育の充実が常に考えられ、実践されていかなければならないのであろう。そして最も大きなブラックホールとも言うべき最後の砦となるものが、社会福祉現場、とりわけ社会福祉施設なのである。社会福祉施設現場は、長年にわたり築き

上げ、鍛えあげて来た人材によって保たれ、継続されている。従つてこの現場の指導実践力こそは、あらゆる社会福祉養成の源泉たり得るものと思うのである。ただ前述したようにブラックホールとしか形容出来ないような、未組織、未表現の状況で放置されているのではなからうか。

社会福祉法人嬉泉が日本愛護協会の協力を得て行っている「ほほえみ賞」もすでに一五回の授与式を向かえようとしているが、その間応募された論文を読むといずれも、素晴らしい現場の実践力を示しているものなのである。この力を何とか結集する機会が持てないものであろうか。

社会福祉施設は、それまでは、独自で人材養成の道を常に意識し、注意深く、精力的に歩んでいかなければならないのである。

今や、我が社会福祉法人嬉泉の職員の養成を出来る限り公表して、社会福祉関係者の意を問うことが希まれるのであろう。出来れば次号から、少しずつ、私たちの主任制度や、合宿研修や新人研修の内容について、整理して述べていきたいと思つてゐる。



高島平五丁目福祉園が開園

渡 辺 博

○初年度は一六名が入園
当法人では、今年度から東京都板橋区から管理運営の委託をうけて、区立心身障害者生活実習施設

「高島平五丁目福祉園」の事業を行うこととなり、去る四月十二日、都立板橋養護学校内の本園で初の入園式を兼ねた開園式を挙行しました。生活実習施設は、昭和五二年に東京都が独自に始めた事業で、のち、区に移管し現在都内に二ヶ所（板橋区内には四ヶ所）あるユニークな施設です。その利用者は、通所バスで通園できる一五才以上の者で、愛の手帳一度または二度。身体障害者手帳一級から三級およびその重複者です。本園の本年度利用者は全員が区内に居住し、主に養護学校高等部を今春卒業した者で、車椅子使用の肢体不自由者が七名、知的発達障害者が九名の合わせて一六名（男九、女七）ですが、うち数名が要介護の重複者です。

私たちの

うけと

須藤福祉センター各事業所からの報告

○園生活リズムづくりに懸命
さて、動きだした福祉園での生活と指導の様子を紹介しよう。何分にも急なことなので、園舎

は板橋養護学校の教室、備品等の不備に加えて利用者と職員とが初対面といった諸々の条件や制約の中で、あわただしいスタートでしたが、明るく楽しい家庭的な雰囲気づくりを目指して職員が一丸となって取り組み、ようやく利用者にも落ち着きと明るさが見られる昨今です。

利用者は、毎朝、職員が添乗した本園専用の通園バス二台にて登園します。点検、健康チェック、身だしなみ、体操を行った後、天候の良いときは環境のよい付近へ散歩に出かけます。近くにある同種別の高島平福祉園に依頼して調製した昼食を職員と共にとった後はゆっくりと休憩。午後は音楽、フォークダンス、おやつ作り等をみんなで楽しむのが基本的な日課ですが、この間、食事、排泄、歩行などの日常動作の介助はもとより、個々の特性、能力に適した作業や創作活動やリハビリテーション等を序々にとり入れ、園での生活リズムづくり、健康の増進、日常生活の自立、能力の開発等、ま



た、毎日それぞれの家庭との間に生活チェック表、連絡帳の交換による相互の状況、情報、意志の疎通をはかり、園での処遇サービスの充実向上に、金沢信一園長補佐を中心に全職員が懸命にとりくみ、ようやくその成果が現れつつあります。

○二年後には「赤塚福祉園」

これから、日毎に新しい体験を積み重ね、利用者の皆さんに明るい笑顔が溢れ、保護者からも信頼される、嬉泉ならではの名実ともに充実した施設をめざして頑張ります。

本園は、今年七月に区内の高島

平五丁目にできるプレハブ建の園舎に、さらに平成五年からは区内赤塚六丁目に建築される本園舎に移転し、定員も明年度四〇名、翌々年には七〇名に増員され、また通所授産施設、生活寮、緊急一時保護施設なども併設されて本格的に稼働する予定です。

(高島平五丁目福祉園長)

●感謝の芳名

(ご寄付いただいた方)

平成二年度(平成二年四月より平成三年三月)世田谷区及び袖ヶ浦の本部、事業所に金品のご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。衷心より感謝申し上げます。なお、年二回のバザー開催に際しては、多大の方々のご協力をいただいておりますが、紙面の都合上今回の掲載はできませんでした。(順不同)

水谷富士穂様 合資会社ワイ・エス・ティール様 須藤尚宏様 高橋節様 中西健一様 岡庭博様 豊田昭子様 竹内靖夫様 飯田秀男様 瑞穂工業技術研究所様 島野恵様 武居工務店様 吉田龍太郎様 吉田さく様 晃商事株式会社 フラワー研究会様 千歳ヶ丘

教会様 東洋英和女子短期大学宗教部様 山口潔様 秋山信靖様 古賀繁美様 内藤喜久子様 小幡浜江様 嬉泉後援会様 工藤正路様 田中英也様 田中礼子様 田村洋紙店様 三菱製紙販売株式会社様 日立製作所親切会様 五十嵐廣信様 BOSH様 (財)キリン記念財団様 露木恵子様 東京都共同募金会様

(袖ヶ浦地域協力者)

袖ヶ浦地域で、ボランティアに来てくださったり、利用者の実習を受け入れてくれたり、日常的に「のびろパン」や「やきいも」の販売に協力いただいている方、あるいは、各種のイベントにお誘いいただいで協力いただいている方々のご芳名です。(順不同)

袖ヶ浦農協長浦支店様 同根形支店様 特別養護老人ホーム・サニール様 同袖ヶ浦菜の花苑様 稲葉石油様 シママラ文具店様 稲村和子様 紺野郁枝様 黒木照子様 主婦の店さつき台店様 提橋元子様 フォト今関様 井村ますみ様 鈴富士住建様 いその文具店様 シバサキ建設様 袖ヶ浦市社会福祉協議会様 公文塾土屋様 福王台保育所様 根形保育所様 袖ヶ浦市健康管理課様 同財政課

様 同水道事業課平野様 文化財センター様 スーパーしんめい様 斉藤とも子様 松崎きみ子様 三浦トヨ子様 河村義昭様 君津木更津地区同盟様 渡辺彰様 春日裕様 東京電力労組袖ヶ浦火力支部様 同木更津工務支部様 とんかつ不二亭様 手作りケーキの店ポニー様 東京ガス袖ヶ浦工場総務課様 同木更津営業所様 平川行政センター様 袖ヶ浦市民会館様 根形公民館様 平岡公民館様 平川公民館様 袖ヶ浦郷土博物館様 長浦駅様 袖ヶ浦市消防本部様 明峯和子様 新谷多恵子様 池田万紀子様

●投稿

社会福祉法人

ベアトウス・ハイム 訪問記

吉賀 理喜江

見学予約に苦労

先ず、施設見学の予約は二〇ヶ所ほど当たりましたが、個人の申込というところで怪訝がられたり、或は公一を入所させると勘違いさうことで、ガードが堅くスムーズ

には取れませんでした。

八月に入ってベアトウス・ハイムよりOKの知らせがあり、急ぎ九日に訪れることができました。さわやかに晴れ上がったお昼、気温二二度位、チューリップ市から約二〇kmのウィンタートゥア市郊外の小さな村ゾイザッハに福祉法人ベアトウス・ハイム(一九八七年四月設立)がありました。

広大な田園の中、静かな教会の近くに普通の民家と同じような佇まいで、見渡したところ五〇〇坪位の敷地に三〇〇坪位の建物で、うか二階建てになっていました。辺りはあくまで静かで、誰もいないのではとドアを開けると長身のピーター・シュピリックさん(治療教育学専攻、心理療法士)がにこやかに迎えて下さいました。

入所者の生活

初対面でもあり最初から厚かましくおたづねするのも失礼かと思う一方で、否、チャンスはないのだからビデオカメラを回しましたが、案内された各部屋に入るとやはり緊張感がただよって、静かに挨拶をしたり声をかけても手元が止まって困った様子の彼らに会うと、素早く切り上げて部屋を出たりしました。

一七名の障害者（一五才～五四才、自閉症、身体障害者、分裂症他一般精神障害）が入所していて、入所者一人につき、一、二、三、三の割合で職員がつきます。

台所では、グリヤージュを煮込むおいしいそうな匂いがして、自閉症の夫と車椅子の妻（身体障害のみ）に二人の職員で昼食作りの最中でした。じっくり見たい気持ちを抑えて軽く会釈をして出ました。（黙々と働いている雰囲気壊すようで悪いと思いましたので。）

日本人が訪れたのは、私たちが初めてではないでしょうか？ 人なつこい一五才の少年は挨拶の度に私の手にキスをしていました。三週間に一度、週末に帰宅します。一年中帰宅しない人もいますが、彼らもクリスマスには家へ帰るそうです。親たちのお手伝いの様子など知りたいと思いましたが、子どもに甘えが出るので止めたということでした。

地域との交流

地域の人たちとの交流は、お祭りの時にバザーを開いたり、私たちと同じ様かと思いましたが少し違います。否、大変異なるのかも知れません。その違いを一九八九年の同法人年報を抜粋して見ましょ

う。

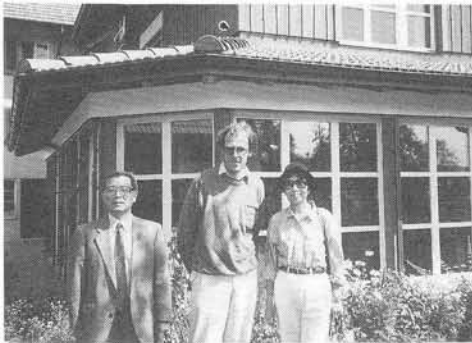
「地域との交流は良くなりました。近所付き合いが緊密になりましたが、それは緩やかなおつきあいの輪の中で、それも日々のおつきあいを通じて生まれました。隣近所の人たちや二九のソイザハの団体や、いろいろな行事に参加してくれる村の人達や、二〇〇名以上のヘルパーがいるウィンタートゥアやキスナツハトのライオンズクラブによって村のお祭りが行われましたが、理想的で大変価値のあるものでした。

教会通り（小路）に沿って行われたこのお祭りは、遠近から誘われた多くの人達によって、ベアトウス・ハイムの寄宿生や職員は心から歓迎されました。実際、我々は、この時村の中に受け入れられたことを感じ、人間的に橋を架けることに成功したのです。

二回の簡素なお祭りで、予期しない七万三千フラン（約七五〇万円）という高額な純益を受け取ることができました。これらのお金は、数多くの売り場（スタンド）や遊戯場やメリーゴーランド等の売り上げや、トンボラ（富くじの一種）の販売収益によるものです。その際に近隣の住家もレストラン

に仕立てられました。

音楽団体や男性コーラスが演奏し、夕には民族音楽や、モダンジャズを聞くことができました。もちろん、外界との接触は他の方法でも行われました。例えばささやかな片隅のバザー、あるいはウィンタートゥアのある薬局の展示場で製品の販売も行われました。ハイムを宣伝してもらうために、地域のラジオ局オイラッハで放送してもらいました。遠近の他の施設から友人達が千人以上も門の開いている日中、ハイムに押しかけてもきました。それらの人達は、ある人々は仕事をしてもらうよう依頼され、



ピーターさんとハイムの中庭で

他の人々は楽団のコンサート、あるいは民族音楽に聴き入り、またダンスにも誘われました。昼食には、コーヒークッキーも出ましたが、これも好評でした。「一致団結した団体のメンバーの助けなしには、この日の成功は得られなかったことでしょう。」と報告されています。

おわりに

私が訪れた時、ハイムは塀も垣根もなく、民家と軒を並べ、自然に溶け込んでいました。「脱走兵はいませんか？」との問いに、最初のうちは隣近所に、あるいは離れたところに行く寄宿生もいたようですが、今では全くないのとことです。

静かで美しい花の村の中、通る人もなく、ゆっくりと時は流れているようでした。設立二年にしてすっかり受け入れられ、まわりからの援助も積極的で、国民性の違いでしょうか、私もこのお祭りに参加して、人々のお話が聞けなかったのが残念でした。

（袖ヶ浦ひかりの学園利用者母親）

嬉泉の出来事

社会福祉法人「嬉泉」創立二十五周年

子供の生活研究所

「めばえ学園」開設十周年

記念式典

本年三月九日、法人の創立二十五周年とめばえ学園の十周年を記念し、日頃から法人のためにご尽力下さっていた方々へのご報告とお礼をかねた祝宴が、東京丸ノ内の東商スカイルームで催されました。

会は二部に分かれ、第一部の式典では須藤祐司理事長の挨拶、石井哲夫常務理事の経過報告に続き、永年勤続者の表彰が行われました。

さらに来賓の厚生省児童家庭局母子福祉課の柄尾勲様、東京都福祉局精神薄弱者福祉課長の乃村勝雄様、世田谷区福祉部長の友保信二様よりご祝辞をいただいた後、職員がこの日のために編集したビデオを上映し、袖ヶ浦のびろ・ひ

かりの学園と、子どもの生活研究所の仕事の紹介が行われました。

第二部の祝賀パーティーは、松島正義理事の乾杯の音頭で幕を開けました。各方面の方々から激励のお言葉をいただき、また関係者の方の楽しい思い出話などもうかがいながら、会は終始和やかな雰囲気の中に進行しました。(柏木)



伊豆吉田での

新人研修

私たちの職員研修は、年度始めの「新人研修」に始まって、内外のセミナーへの参加、合宿研修など年間を通じて様々な形と内容で行われております。

その一つとして今年も、伊豆半島の最南端にある吉田村での新人研修が行われました。ここに「吉田子どもキャンプ」があります。嬉泉の事業が始まる以前の今から三〇年ほど前、子どもの仕事を志した石井所長や奥村副所長が自ら古材をかつぎながら建設したという合宿所。目前には、広大な太平洋が広がり、後方はそそり立つ山。村人はまばらで人家もわずかに残るような超過疎化の進んだ部落の一角です。この世間から隔絶された別天地に嬉泉の職員が集まって研修を行ってきたのです。

今年も、高島平五丁目福祉園が始まり、新人の職員も増えました。この新人研修では、園長職をはじめ全事業所の主任が参加し、全員で生活班や研修のための係を分担し、新人の人達と一緒に生活を作りながらコミュニケーション

ンをはかり研修を深めて行きました。(友田)

袖ヶ浦市

保健センター祭り

袖ヶ浦は四月に市政に移行し、その記念事業のひとつとして、市庁舎の敷地の一角に「保健センター」が建設され、五月二六日「保健センター祭り」が開催されました。

学園にも参加のお誘いを受け、「のびろパン」と「無農薬野菜・卵」を利用者の人達と一緒に販売しました。当日は、朝から快晴に恵まれ、子ども連れの家族やお年寄りの人達も沢山来て、各催しコーナーや販売コーナーは人だかりが絶えないほどの盛況ぶりです。私たちの「のびろパン」もまたたくさん売られてしまいい、改めて地域への浸透ぶりを感じさせてもらいました。

六月には、「暮しと環境を考えるイベント」があり、参加の誘いを受けております。こうした地域のいろいろな行事に積極的に参加していくことを通して、学園と地域との交流を進めるひとつの機会にしたいものです。(友田)

ひかりのタイムス

独立第13号

「ひかりのタイムス」の欄は、編集長は袖ヶ浦ひかりの学園利用者の山岸裕君で、編集人の友田と相談しながら、原稿や作品を学園の利用者の人達から募集して編集しています。応募してくれた原稿については、加筆や訂正は一切しないで(行数の関係で本人の了解の上削除はする)原文のまま山岸君に得意のワープロで清書してもらい、割付け・編集の作業をしています。さらに学園の利用者の人達の作品などの写真を掲載しています。

ヤキイモ販売で 得た、教訓 人の信用失うと ロクな事ない。

山岸 裕

話しは、九一年春の袖ヶ浦バザーでの事。私は作業でやっていたヤキイモ販売をやる事になった午前中までは順調にいった。少なくともこのタイトルにあるような信用を失う事件のあった昼から午後になるまでは……………

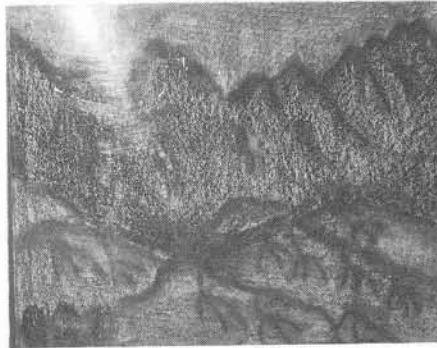
本来なら、ヤキイモ販売の感想を書くべきなのだが、ヤキイモというこの事件の印象が私には強く残っているので書く。

休憩時間の判断ミスがヤキイモ販売の担当者への私の信用を失墜させた。

それはタイトルにあるように、休憩時間の一時を終えた。担当者がいない。そこで判断ミスした。『担当者がいないから休憩時間は、あと一時間だろう』と思った。それがつまづきの始まりであろうとは当時予想もしていなかった。その一時間学園中を回った。記憶に寄ると午後二時、担当者は怒っている。「なぜ、一時にこなかった」私が理由を説明すると「山岸さんくらいなら言われなくても出来る」と信じていたのに裏切られた。ショックダメージは大きい。」とボヤ

く。嘆く。

その時、相手に不信を買ってしまった事に気付いた。「どうすれば、信用取り戻されるのですか」担当者「キチンと言われた仕事すればね」と言った。その場は納まった。



山岸 裕君の絵

春三月という短い時間に私なりに信用回復に努力した。

一度失った信用は回復したという手応えはなかった。

人事異動があり、その担当者は他の部署に異動した。しかし心のシコリはお互いにある。

パン販売の担当になり、一緒にやる。信用回復に努力して誠実に対応する。

私は相手に対して不信を持って

整理室の仕事と 食堂室の仕事

中西 幸一

お金を貰っている仕事は、整理室の一部だけで半分以上ボランティアでこなします。働きに対して、貰う金額は気にしてはいないけど、給料は値上げで、ボーナスは据え置きにしておきたい。

両方値上げは、貰い過ぎで払ってくる側とバランスが、安定していかないようでございます。

左側と右側のバランスと同じである事のようにございます。

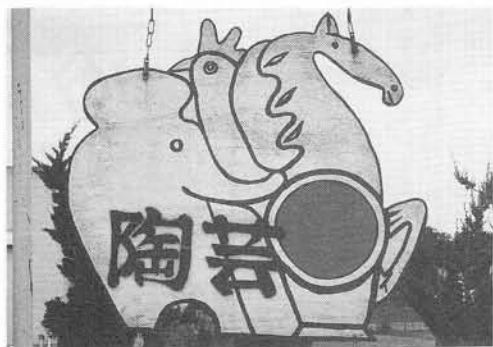
整理室の仕事と食堂室の仕事はお金に関係なく頑張れる事は頑張りが欲しい、体に無理しても頑張りが欲しい、体は無理しても頑張りが欲しい、施設に思い残す事はない事のように見えています。

何の未練も残らないようでございます。

(グループホーム利用者)

きた。今回は逆だ。相手に不信を持たれた。こういう時、初体験だから後手に回った。打つ手、打つ手が失敗した。こういう事は二度と起きて欲しくない。

後味悪いわ。この事件は一生忘れない。(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)



陶芸工場の看板

陶芸の歴史

市川浩史

始めは高野さんの成窓窯へ行つて馬の首つきコップ・チャボの首つきコップ・ふぐの置物・瓢箪・箸置きを作りました。

それからびろ学園で陶芸をやるようになって、始めは、へんな物でしたが、馬の首つき灰皿を作りました。

それから瓢箪どっくり、白灰皿・タヌキの貯金箱を作りました。たくさん作りすぎになった。

そこでまたふたたび、馬の首つきコップを作った。

始め駄目なので、あとから、馬を見て来て、少し馬らしくなって来たから、アラジン・壇輪・馬魚・魚鳥を作りました。馬の研究に行つて、本物らしく馬を作りました。それから今年になり、電動ろくろが来その練習で馬の首つきコップは出来ない。※漢字一部山岸訂正(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)

パン工房

伊藤訓育

ぼくは、火曜日から金曜日まで午前中は、八時三〇分から、一時四〇分まで午後二時から三時四〇分まで、いずれもいきます。

又、木曜日にはしんめい販売にいつています。火曜日は袖ヶ浦市役所販売に行つています。

先生は鈴木・緒方・池田各先生とりあえず金曜日は山田喜義くんと交代しています。これは金曜日にしんめい販売に一週おきに交代します。午前中にはロールパン・ぶどうパン・メロンパン作っています。

(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)

子研での仕事

田中雅也

昭和五九年一〇月の袖ヶ浦ひかりの学園の創立の時から週に一回子研の事務の仕事が続けています。現在平成三年五月までとしては、袖ヶ浦ひかりの学園に、いるよりは、子研の仕事の方が気に入っています。一回はパン販売、もう一回は事務が毎週、子研の仕事は、週に二回が、週に一回となりました。

袖ヶ浦ひかりのはやになるけれど、子研の仕事はやにならない。僕は集団生活するよりは、一人で生活するのが気に入っている。

始めは、袖ヶ浦ひかりのを僕は、退園をして、月曜から毎週金曜日まで、子研に、通勤する希望を持っていました。やっぱり子研の仕事も、子研とのびろの年に、二回のバザーも興味の無いひとばかりで、こたし無理やり誘われるから。ほんとに嬉泉の生活を全部やめて杉並区内のよその会社就職するのを実行したくなりました。

日曜のバザーの仕事へ誘われると毎週楽しいラジオを聞く事が出来ないのが寂しい。

子研の仕事は、始めの時は、時

間が遅くなったり遅れて、先生達を困らせたり、僕は、袖ヶ浦ひかりの学園の生活そのものが嫌いな人とやって行くなんかの不満だらけで、子研で、僕は大声で怒鳴って、ますます、やな目にあつて、ひかりのの先生に怒られた。

毎週、子研にいたら、電話するようになって、一回、これも、袖ヶ浦ひかりの学園の不満の泊まりがけの生活は、先生にうるさく言われるのがやで、電話で怒鳴ったのもある。

これからは、他人に迷惑となる行いはせずに、真面目に、嬉泉と別のところで仕事をしたい。

このごろでは、お金貰えるから、遅れないようにしないといけない。子研の仕事は、パン販売がなくても行く。子研では、切手を数えてから、切手を買に行くのと職員のはんこ押しと銀行の口座番号を書くのと買物のスタンプのシールを貼る仕事をいつもやっています。いつも、午前一〇時から、午後四時三〇分まで、子研で、パン販売がなくても、有っても、仕事に行っています。

NHKの撮影は、あるかと感じてもなかった。

(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)